



耳鼻咽喉科 科長  
安原 一夫  
やすはら かずお

きょうは  
耳鼻咽喉科  
です



こんにちは  
診察室です。

# 頭頸部がんについて

## はじめに

頭頸部がんは、がん全体の約5%程度と症例数はそれほど多くありません。具体的には口腔がん、鼻副鼻腔がん、上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がん、喉頭がん、唾液腺がん、甲状腺がんなどを含みます。馴染みがない病名ばかりかもしれませんが、これらのがんが共通して言えることは食事や呼吸の通り道にできるがんであるため、がんができること、そしてその治療によっても生活の質が大きく損なわれる可能性があるということです。がんの治療には根治性（治療によってがんを完全に取り除くこと）が求められますが、同時に安全に治療を行うこと

や機能を保つことも重要であり、特に耳鼻咽喉科は機能に関わる部位を扱う診療科ですので、機能を保つことを常に念頭において、機能外科として日々の診療にあたっています。

みなさんが耳鼻咽喉科にかかる際には、耳が痛い、耳が聞こえにくい、鼻水が出る、鼻血が止まらない、のどが痛い、声がかれるなどの症状で多くの場合は中耳炎、副鼻腔炎、扁桃炎や咽頭炎など、1回ないし数回の治療で治ってしまふ病気がほとんどです。しかしこれらの症状は、すべて頭頸部がんの症状でもあるのです。頭頸部がんは放置すると治療が難しくなることも多いため、早めに耳

頭部がん患者の治療にあたる、という決意の表れでもあります。



## 頭頸部がんの原因

口腔がん、咽頭がんや喉頭がんは喫煙と飲酒が原因の一つです。喫煙をする人は喫煙をしない人と比べて2〜3倍ほど口腔がん、咽頭がんになりやすく、男性の場合

は5〜6倍ほど喉頭がんになりやすいと言われている、さらに喫煙と飲酒が組み合わされると、どちらかの一方の場合よりも発症しやすくなることも知られています。

喫煙と飲酒以外では、上咽頭がんはEBウイルス、中咽頭がんにはヒトパピローマウイルスというウイルスの感染が原因となることが知られています。ヒトパピローマウイルス感染が原因の中咽頭がんは、放射線や抗がん薬が効きやすいこともわかってきていて、機能を保つ目的で、手術よりも放射線治療や放射線治療に抗がん薬を加えた治療が選ばれることが多くなっています。

## 頭頸部がんの治療

がんの治療はおもに、手術、放射線、薬物療法の3つに分けられます。頭頸部がんでは、手術と放射線による治療によって根治を目指すことができ、薬物療法は放射線と組み合わせて行います。

手術では、がんが見えた目で残らないのはもちろん、取り出した腫瘍を顕微鏡で拡大して調べてもがん細胞が残っていないように切り

取ることが必要です。そのためにがんの周りの正常な部分を一緒に切り取ることは、頭頸部がんに限らずがんの手術の原則ですが、頭頸部という場所はいへん狭い範囲のため、正常な部分をたくさん切り取ることはできません。また切り取った部分は食事の通り道だったり、声を出したり呼吸をするために必要な部分ですので、手術によって大きく機能が損なわれることとなります。そのため、根治性と機能性のバランスを保った治療を目指す必要があります。

食べ物の通り道を大きく切り取った場合には、その部分を身体ほかの部分で代用する、皮弁再建と呼ばれる手術が行われます。下咽頭がんを例にご説明しますと、食事の通り道である咽頭を切り取ったあと、消化器外科の先生に空腸（小腸の一部）を切り取ってもらい、これを切り取った咽頭の代わりに縫い付けます。その後形成外科の先生に空腸の血管を首の動脈や静脈と縫い付けることで空腸の壊死（腐ってしまうこと）を防ぎます。このように頭頸部外科医だけでなく、消化器外科医、形成外科医が合同で行う手術

ですので、時間も8時間以上かかるような大がかりな手術になります。

放射線は早期がんでは放射線のみに、進行がんでは放射線と薬物療法（抗がん薬）を組み合わせ治療になります。手術と比べると機能の温存には向いていますが、腫瘍が大きすぎるとなかなか完全に切り除くことが難しい場合があります。また、治療期間は2ヶ月程度と長くなり、粘膜炎による痛みや嚥下障害（飲み込みが悪くなること）、口の中の乾燥や味覚障害などの副作用も強く出るので、治療中から治療後にかけて食事が摂りにくくなるなど、決して楽な治療ではありません。竹田総合病院放射線科では放射線治療にIMRT（強度変調放射線治療）を導入して、正常組織への影響を最小限にしながら腫瘍に対して高線量の照射が可能になっています。

薬物療法は単独では根治を目指すことは難しい治療ですが、ここ最近では二ボルマブやペムブロリズマブといった免疫チェックポイント阻害薬など、これまでの抗がん薬とは作用の異なる薬剤が頭頸部

がんでも適応となってきました。対象の患者さんが増えてきています。これらの薬剤は外来での投与も可能ですので、通常の生活を送りながら、1〜3週に1度の外来通院をしていただいで治療をおこなっています。

## おわりに

頭頸部がんの治療にはさまざまな職種が関わる必要があります。また、治療を行わないと生活の質が大きく損なわれるのが大きな特徴です。どの領域も早期発見・早期治療ががん治療には重要ですが、治療後の機能を保つためには頭頸部がんもその例外ではありません。

口の中やのどの症状、頸部の腫れが続くときには放置せずに早めに耳鼻咽喉科を受診してください。竹田総合病院では院内の他職種はもちろん、頭頸部がんの症例数が日本トップクラスである、がん研究会有明病院頭頸科と連携して治療にあたっていますので、頭頸部がんの治療が必要な際にはぜひ当科を受診してください。